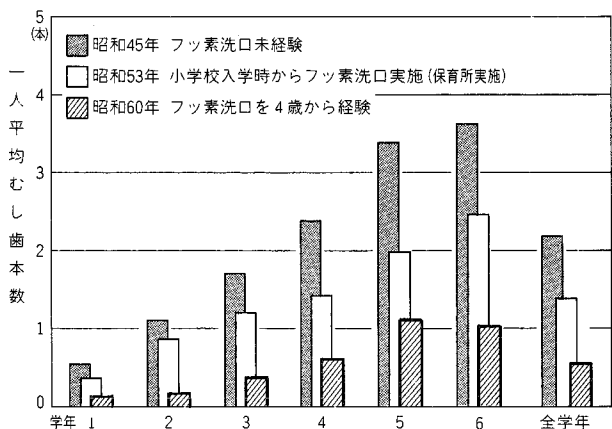


## みんなの理解と協力で こどもたちに健康な歯を

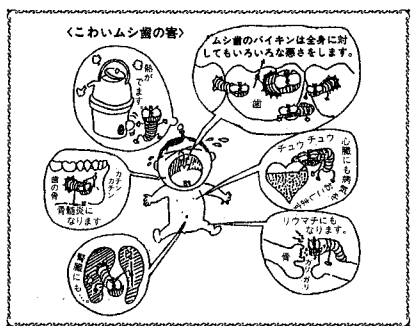
### 竹内 (保育所) 歯科医師

私は保育所や幼稚園の歯科健診結果を見ていつも思うことは、小須戸町の子どもたちは、大変むし歯が多く、治療もとても充分とは言えない状況です。むし歯の多い子どもを見ると、本当にこの子どもは、満足な食事がとれているのだろうか、お話しも不自由なくできるだろうか、心配になります。

もしこの子どもたちみんなが健康な歯であれば、どんなにすばらしいことかとつくづく考えさせられるのです。このように



【図4】 弥彦村小学校の学年別1人平均むし歯本数の推移



ことから、今年度から保育所や幼稚園を巡って、子どもたちとできるだけ多く接し、歯の話や歯みがき指導を行なってきまして、保育所や幼稚園児でも、すでに永久歯が生えている子どもがいることを、お母さん方は知っておられるでしょうか。むし歯だらけの口の中に生えてきた大切な永久歯は、まだ未完成のため、むし歯に大変かかりやすい状態になっています。したがって、むし歯の子防をすることが

## ちよとした不法行為 (水死事故防止)

下の表は昨年度の県内の月別水死者数です。水泳シーズンの七・八月に多くなっています。昨年度の県内では一四件の水難事故が発生し、七十八人が水の犠牲となっています。ちよとした不注意が事故につながります。充分ご注意ください……

### 昭和60年県内水死者数

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
大人													13
中学生以下の子供				2	1	2	3	4	1				65
合計	1	4	6	4	4	14	14	7	5	3	3	3	78

(新津警察署)

## 音と光で、す早く知らせる 都市ガス警報器

都市ガス用漏れ警報器等  
普及促進全国総一キャンペーン

7月1日~8月31日

主催/財団法人日本ガス協会 後援/通商産業省 資源エネルギー庁

あなたの家庭は大丈夫ですか、ちよと目を離したスキに、ついうっかり、こわい煮こぼれでガスの立消えやガス漏れなどの経験がありませんか？  
ガスを安全に使って戴くためにガス漏れ警報器の促進キャンペーンを行っています。  
申込み、又は、お問い合わせは企業課、又は、小須戸町ガス公認工事店へ。

**果樹損害評価技術コンクール見事第一位 (小須戸チーム)**  
七月十一日に白根市茨曾根地区に於て、果樹(もも)損害評価現地研修会(県共済連主催)が開催され、当町より高山喜代衛、五十田耕治、吉田和夫、阿部信行氏と共済担当職員五名が参加、午前中は損害評価現地調査等の講義を受け、午後より樹園地にて評価技術コンクールを参加七チームによって競い、小須戸町チームは、一個の重量をスバリ当てるなど各評価項目に高得点を上げ、見事一位となりました。おめでとうございませう。今後の評価技術を生かされ御活躍される事を期待いたします。

# なくそう、こどもの「むし歯」を!!

小須戸町のこども達のむし歯の現状、むし歯の害、そしてむし歯退治に成功した例を紹介します。

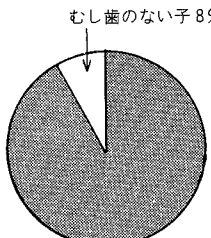
歯は食物を噛み、消化を助ける重要な器官のひとつです。乳歯二十本、永久歯ならば二十八本とたくさんあることから、一本くらいとついおろそかに考えがちです。本当にそれでいいのでしょうか。むし歯は他の病気にちがって一度かかると自然に治ることがなく、放置すれば重症化する一方の病気であり、しかも私たちの間に広くまん延していることは、よく知られているところです。

いくら栄養価が高い食物でも第一関門である歯が、正常に働かなければ胃腸に負担をかけるし、ひいては健康を阻害することになりかねません。

小須戸町の子どもたちのむし歯は、県平均よりも多く、特に中学生のむし歯は、新津保健所管内七市町村の中でも、多い状態にあるのが現状です。

小須戸町では今年度から、町の健康づくり対策の一環としてむし歯予防に取り組むこととしております。

むし歯予防の重要性や今後の取り組みについて、皆様からご理解と協力をいただくため、「むし歯予防特集」を組みましたので、ご家族でお読みください。



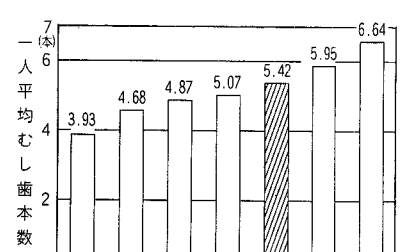
一、県平均をこえる小須戸町のむし歯  
県では、昭和五十六年度から子どもたちのむし歯を半分に減らすことを目標に、「むし歯半減十カ年運動」を進めております。小須戸町の子どもたちの実態はどうでしょうか。

**乳歯は、**  
小須戸町の保育所、幼稚園児のむし歯は、県平均よりも多く、憂慮すべき状態にあります。小須戸幼稚園では、むし歯のない子どもがわずか八%です。

**永久歯は、**  
小学校一年生でわずかに県平均より良いものの、学年で県平均より悪く、小学校一年生で三本であったものが、中学校三年生では六・八本と直線的な増加を示しています。

新津保健所管内七市町村で、平均のむし歯本数を比較しました。(図2) 当町は、第五位であり、県内二市町村の中では九十一番目という非常に悪い成績です。一旦むし歯になったら、できるだけ早いうちに治療することが必要になります。(図3) しかしどうでしょうか? 図3で示すとおり、当町の治療率は五十%台であり、半分はむし歯のまま放置されている状態です。これは県下で二〇一番目という悪い成績になっています。

小須戸町の子どもたちのむし歯が、このような現状にあることを、私たちは真剣に考えてみる必要があります。



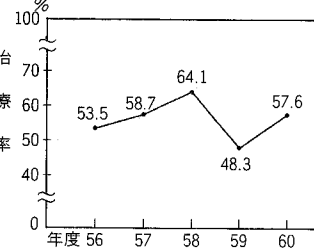
【図2】 新津保健所管内七市町村の12歳児1人平均むし歯本数の比較

二、むし歯の害  
小須戸町は、県内でもむし歯のひどい町と言われたもしかたがない状態です。むし歯は痛みを伴います。小さい子どもの場合、熱を出す原因となります。重症化すると、腎臓や心臓、関節などにも炎症をおこすことがあります。治療のために、園や学校を何日も休まなくてはなりません。

また何よりも痛くて、堅いものが噛めなくなります。すると食へもの好き嫌いの原因となり、最も成長が期待される保育所、幼稚園、小・中学生の時期に、バランスのとれた栄養摂取ができなくなったりします。

一本のむし歯でも子どもたちの健康に対して、計り知れない多くの害を与えているのです。

三、むし歯退治の成功例  
西蒲・弥彦村では、子どもたちのむし歯が多く困っていました。そこで昭和四十五年から小学校で週一回のフッ素洗口を始め



【図3】 治療率の年次推移 (町・小學生)  
その結果、(図4)に示すように小学生一人平均のむし歯本数が昭和四十五年の二・二本から八年後の昭和五十三年には、一・四本となりました。しかし低学年ではむし歯が減りません。これは新入生がすでに永久歯のむし歯を持って入学してくるからです。永久歯のむし歯予防は、小学校に入ってからでは、手遅れということになります。そこで昭和五十三年からは村内の保育所の四・五才児もフッ素洗口を始めました。そして七年後すべての学年で、むし歯が減ってきました。学校全体では、昭和四十五年当時の二・六以下の一・六となりました。

また治療率も八一・七%となるなど、すばらしい成果をあげています。